

# 平成 21 年度病害虫発生予察特殊報第 2 号

平成 21 年 5 月 20 日  
愛 知 県

1 病害虫名：キク苗腐敗病（仮称）（*Plectosporium tabacinum*）

2 対象作物：キク

3 発生地域：東三河地域

4 発生確認の経過

平成 20 年 9 月、東三河地域において育苗用培地に挿したキクの穂が萎れ、腐敗する症状が発生した。挿した穂の約 3 割が全く発根せず、穂の切り口が腐敗するものもあった。病斑部からは PDA 培地上で淡黄白色菌叢、表面が粘質の菌が分離された。この菌は独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構花き研究所において、平成 21 年 1 月に *Plectosporium tabacinum* と同定されたため、キク苗腐敗病（仮称）と診断した。なお、発生を確認した苗は、海外で生産、輸入されたものである。

5 病徴

育苗用培地に挿したキクの穂が全く発根せず、穂の切り口が黒変腐敗し（図 1）、青枯れ状態で萎れる（図 2）。

6 病原菌と伝染

糸状菌の一種。菌叢は粘質で気中菌糸はごくわずかで、ほとんどの菌株はベージュから肌色を呈するが、まれに灰褐色ないし暗褐色の菌株もある。PDA 培地上では 5 ~ 30 の温度域で生育し、23 ~ 25 で最も生育が良好であるが、生育速度は比較的遅い。分生子は分生子柄頂部に擬頭状に集塊する。分生子は油滴を多く含み、無色、楕円形ないし紡錘形でポート状に片側が丸みを帯び、菌株によっては一端がわずかに湾曲し、表面は平滑、無 ~ 1 隔壁。無隔壁分生子は  $4.6 \sim 12.0 (\sim 13.6) \times (1.8 \sim )2.0 \sim 3.1 \mu m$ 、1 細胞； $19.1 \times 7.7 \mu m$ ）、有隔壁分生子は  $7.3 \sim 14.0 \times 2.3 \sim 3.6 \mu m$ 。

本菌は古くから土壌菌と認識されてきたが、植物の地上部も直接加害する。また、湿性分生子を形成するところから、基本的に水を介して伝搬するものと考えられ、植物体の地上部には、主として風雨による土壌の跳ね上げと飛沫付着により伝染するものと推測される。

国内ではこれまでカボチャ、トマト、ダイコン、クルクマを始め 13 種の植物から分離されているが、明瞭な宿主特異性が見られる。

7 防除対策

土壌水分が過多にならないよう、適切に灌水する。  
発病株、被害残渣は施設外に持ち出し、適切に処分する。

8 連絡先

農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除グループ  
電話：0561-62-0085（内線 471）



図 1 穂の切り口が黒変腐敗した症状  
（築尾原図）



図 2 キク苗腐敗病の発病穂